

第 8 回

東京都競技力向上推進本部会議

平成26年3月31日（月）

第8回東京都競技力向上推進本部会議 次第

平成26年3月31日

1 開 会

2 挨 拶

3 委員紹介

4 議 事

- (1) 平成25年度競技力向上事業の取組状況について
- (2) 平成25年国民体育大会の成績について
- (3) これまでの競技力向上の成果と今後の方向性について
- (4) その他

5 閉 会

午後3時00分 開会

○事務局（松尾） ただいまより、第8回「東京都競技力向上推進本部」会議を開催いたします。本日は、お忙しいところご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

私は、オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部事業推進課長の松尾です。本部長に進行をお願いするまでの間、司会進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、始まる前に、お手元配付の資料の確認をさせていただきたいと思います。

1枚目に会議次第があります。次に本日の座席表があります。その次に推進本部会議の委員名簿があります。本部会議のもとに設置している部会ですが、強化部会の委員名簿、指導者部会の委員名簿、さらには医・科学部会の委員名簿があります。次に本日の議事の資料ですが、A3判で資料1、資料2、資料3の3枚があります。最後になりますが、平成24年3月28日に開催しました第7回の本推進本部会議の議事録を参考に添付させていただいております。

以上です。

それでは、はじめに、本部長である秋山俊行東京都副知事より、ご挨拶をお願いいたします。

○秋山本部長 副知事の秋山です。委員の先生方には、お忙しい中、お集まりいただきましてまことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。

この会議は、平成19年7月に、大きくは、昨年開かれた東京国体に向けた選手強化、さらに国際舞台における東京都選手の活躍などを踏まえまして、競技力の向上についてご議論を賜りまして、そのための基本計画・実施計画を定めていただきまして、それに従って行政のほうでも事業を進めてきたという経緯があります。

1つは、おかげさまで、昨年秋に開催しました「スポーツ祭東京2013」におきまして、東京都は他県を圧倒し、3,486点で総合優勝しました。また、それだけではなく、全40競技中20競技で男女総合優勝するということで、いわばぶっちぎりの優勝を果たしました。そういう面では、この会議でご審議いただいた成果が大きく花開いたということになりました。

また、もう1つ、国際舞台における東京都選手の活躍ということであれば、昨年、ご支援を賜りまして、2020年のオリンピック・パラリンピックの招致に成功しました。また、そこにつながって東京都選手の活躍の場も開けるということになります。この場をお借りして、厚く、厚く御礼を申し上げます。

本日は、事務局より、競技力向上の取組について、今後の方針等も含めて説明させていただきます。どうか忌憚のないご意見を頂戴したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○事務局（松尾） ありがとうございます。

続きまして、副本部長をご紹介します。

中野英則東京都体育協会理事長です。

○中野副本部長 中野でございます。

○事務局（松尾） 中嶋正宏オリンピック・パラリンピック準備局長です。

○中嶋副本部長 中嶋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 次に、特別委員の皆様をご紹介します。

上村春樹特別委員です。

○上村特別委員 上村です。どうぞよろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 金子正子特別委員です。

○金子特別委員 金子です。よろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 続いて、本部長、副本部長から見て左側にお座りの委員の皆様を、お席の並び順にご紹介いたします。

渡辺軍三委員です。

○渡辺（軍）委員 渡辺です。よろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 澤本則男委員です。

○澤本委員 澤本です。よろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 並木一夫委員です。

○並木委員 並木です。どうぞよろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 古家眞委員です。

○古家委員 古家でございます。どうぞよろしくお願い致します。

○事務局（松尾） 次は、金子一彦委員の代理で、教育庁指導部体育健康教育担当課長の

白井様にご出席いただいております。

○白井氏（金子委員代理） 白井でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 延與桂委員です。

○延與委員 延與です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 大井俊博委員です。

○大井委員 大井でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 続きまして、右側にお座りの委員の皆様をご紹介します。

渡邊建一委員です。

○渡邊（建）委員 渡邊です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 板垣一典委員です。

○板垣委員 板垣です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 八田野芳孝委員です。

○八田野委員 八田野です。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 高橋あゆち委員です。

○高橋委員 高橋です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 篠田芳典委員ですが、本日は代理で警視庁教養課術科担当管理官の中川様にご出席いただいております。

○中川氏（篠田委員代理） 中川です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） 川合純委員です。

○川合委員 川合です。

○事務局（松尾） 早崎道晴委員です。

○早崎委員 早崎です。よろしくお願いいたします。

○事務局（松尾） なお、田嶋幸三特別委員、小笠原行伸委員、有馬守一委員及び渡辺政義委員につきましては、あらかじめ、ご欠席の連絡をいただいております。

また、本推進本部のもとに設置しております各部会につきましては、お手元の委員名簿のとおりでございます。各部会は、本年2月に開催させていただきました。

それでは、ここからは、秋山本部長に進行役をお願いいたします。

○秋山本部長 それでは、座ったままで議事を進行させていただきます。

議事に入る前に、カメラの取材についてはご遠慮いただいておりますので、よろしくご了

解をお願いいたします。

それでは、1つ目の議事となります「平成 25 年度競技力向上事業取組状況」につきまして、事務局から資料の確認と説明をお願いいたします。

○事務局（松尾） それでは、お手元の A 3 判の資料 1 をご覧ください。「平成 25 年度競技力向上事業 取組状況」につきまして、説明をさせていただきます。

資料の左側が「選手強化・指導者事業」で、右側が「医・科学サポート事業」です。なお、選手強化・指導者事業のうち、番号を四角で囲んだ 5 番、8 番、9 番、11 番及び 12 番の各項目につきましては教育庁の所管事業となりますので、後ほど教育庁の白井課長よりご説明いただきます。

はじめに、「1 トップアスリート発掘・育成事業」です。これは平成 21 年度から始まった事業です。昨年度までは「東京都ジュニアアスリート発掘・育成事業」という事業名で実施してきた事業で、都内在住・在学の中学生の中から優れた運動能力を有する選手を見つけて、育てて、活かすというものです。ボートやウエイトリフティングなど、比較的競技人口の少ない競技に高校生から競技転向してもらい、東京国体で活躍できる選手を発掘・育成してきました。これまで 1 期生から 4 期生まで 86 名が修了しております。

次に、「2 ジュニア育成地域推進事業」です。これは、都内 59 の地区体育協会と連携し、各地域で小学生から高校生までのジュニア層を対象として、各種スポーツ教室の開催やスポーツ大会の実施などを行っている事業です。昨年度は 818 事業が実施され、67,155 人が参加しており、着実に都内のジュニア選手の裾野の拡大に寄与しております。

続いて、「3 ジュニア特別強化事業」です。これは、国体正式競技の 40 競技団体との連携のもと、ジュニア選手の強化を目指して、強化練習、強化合宿及び対外試合を実施しているものです。

続いて、「4 東京都ジュニア強化選手の認定」です。将来の国体での活躍が期待される小学 4 年生から中学 3 年生までのジュニア層の選手を、東京都ジュニア強化選手として認定することにより、早い段階から東京都の選手としての自覚を持ってもらうことを目的としております。

1つ飛ばして、「6 海外都市とのジュニアスポーツ交流大会の開催」ですが、大きく 2 つの大会を実施しております。まず、東京国際ユース（U-14）サッカー大会をゴールデンウィークの期間に実施しております。今年度は、東京を含む 13 都市が参加する大会となり、

大いに盛り上がりました。また、ジュニアスポーツアジア交流大会につきましては、柔道とバドミントンの2競技の交流大会を8月に実施しております。こちらの大会には、東京を含む19の都市が参加しました。

「7 東京アスリート育成推進校の指定」ですが、今年度は東京国体の少年の部での活躍を目指して、29競技102校を東京アスリート育成推進校に指定しました。

2つ飛びまして、「10 国体候補選手強化事業」です。先ほどのジュニア特別強化事業と同様に、国体正式競技の40競技団体との連携のもと、成年の部の国体候補選手の強化を目指して、強化練習・強化合宿及び対外試合を実施しております。

最後に、「13 国体選手強化指導員の認定」ですが、今年度は38競技397名を認定し、指導者が所属する組織等に対して、指導者が国体に向けた強化合宿等での指導に参加しやすくなるように、国体選手強化指導員としての認定証を発行しております。

「選手強化・指導者事業」のうち、オリンピック・パラリンピック準備局の所管事業につきましては、以上ですが、教育庁所管事業に関しては白井課長よりご説明をお願いします。

○白井氏（金子委員代理） それでは、続きまして、教育庁所管事業について説明いたします。

まず、「5 総合的な子供の基礎体力向上方策（第2次推進計画）の推進」です。実は、平成22年度から第1次推進計画を3年間展開してまいりました。今年度から第2次推進計画ということで、東京都統一体力テストの実施を、これは平成23年度からで3回目になります。あと、中学生東京駅伝は、大雪のために今回は中止になりまして、非常に残念でしたが、こうした取組を実施してまいりました。

特に子供の基礎体力ですが、小学生は、全国順位の大まかな目安として言いますと、過去は低かったのですが、今は全国平均まで上がってまいりました。ですから、すごく成果が上がっているような状況でございます。

「8 国体強化部活動の指定」ですが、10競技16校17部ということで、「スポーツ祭東京2013」に向けて強化してきた事業です。特にボートなどは大変成果が出まして、世界選手権に出場するようなアスリート発掘・育成事業等の卒業生がそうした活躍をして、非常にいい取組だと思っております。

「9 都立高校運動部活動強化拠点の指定」ということで、7競技について、特に予算面の支援を実施しております。

「11 中学生・高校生の強化練習会の実施」は、中体連・高体連と連携させていただいて、国体に向けて強化してきたものです。

「12 中学校部活動への外部指導員の導入」につきましては、中学校の部活動については、顧問が異動するとく部活動の存続がなかなか難しいという課題がありまして、区市町村に対して2分の1補助する事業という形で取り組んできた事業でございます。

説明は以上です。

○事務局（松尾） ありがとうございます。

続きまして、資料1の右側、「医・科学サポート事業」について説明させていただきます。まず、「1 大学と連携した医・科学サポート事業」についてです。この事業は、日本体育大学、日本女子体育大学及び国士舘大学の都内の体育系3大学と連携して、将来有望な高校生選手を対象に、コンディショニングサポートやトレーニングサポートといった、医・科学的な知見やノウハウに基づいたサポートを行う事業でございます。多少見づらいかもかもしれませんが、右側の写真が医・科学サポートを実施している様子です。今年度は、表に記載のとおり、10競技12種目109名の選手が、この医・科学サポート事業の対象選手となり、各種サポートを実施しました。また、これまでの医・科学サポートでの知見やノウハウを踏まえまして、指導者や選手、保護者などを対象とした医・科学講習会を4回開催しました。

続きまして、「2 国体候補選手のメディカルチェック」です。東京国体の出場候補選手964名に対して、健康調査票によるメディカルチェックを実施しました。健康調査票の中で問題があった選手には、スポーツドクターにより個別に病院での検診を促すなどの指導を実施しております。

最後に、「3 指導者人材データの収集・提供・派遣」です。今年度は、スポーツドクターやトレーナー等の人材を、競技団体が実施する強化練習等に75件75人派遣しております。なお、現在の登録者80名の内訳は記載のとおりでございます。

なお、資料1について、2月に開催しました各部会で出た主な意見をご紹介させていただきます。強化・指導者部会におきましては、学校部活動の支援のあり方についてのご意見がございました。また、医・科学部会では、スポーツドクターの派遣方法等についてのご意見がございました。

資料1の説明は以上です。

○秋山本部長 どうもありがとうございました。

それでは、これから質疑に入りたいと思います。ただいま資料1につきまして、競技力向上事業の取組状況のご説明がありました。委員の皆様から、ご質問、ご意見をいただきたいと思います。ご発言をよろしくお願いいたします。

○並木委員 スポーツ文化事業団の並木です。

一言ご報告がございます。資料1の右側にある医・科学サポート事業のうち、大学連携事業、指導者の派遣等につきまして、手前ども事業団が都と共催で事業を実施しております。おかげさまで、昨年の東京国体でも成果が出たと思いますが、このたび、その成果をはじめとして、これまでの6年間の取組実績を今、報告書にまとめております。まとめさせていただきます。4月以降に皆様にお送りできると思いますので、ぜひともご一読いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○秋山本部長 後ほど報告が届くということですね。ありがとうございます。

ほかにかがでしょうか。

よろしゅうございますか。

それでは、次に、2つ目の議事となります「平成25年国民体育大会の成績について」です。事務局から、資料の確認と説明をお願いします。

○事務局（松尾） お手元の資料2をご覧ください。資料2は、54年ぶりに東京都が開催地となりました昨年の第68回国民体育大会の成績をお示ししたものです。左側は、天皇杯と皇后杯の総合成績です。天皇杯、すなわち男女総合成績は東京都が第1位で、3,486点でした。以下、大阪府、埼玉県と続きますが、2位の大阪府とは1,600点以上の大差をつけての優勝となりました。次に、皇后杯、すなわち女子の総合得点でも、東京都が1,622点で第1位となりまして、2位の大阪府とは700点以上の大差をつけての優勝でした。

続きまして、右側の入賞順位別に見た競技成績一覧をご覧くださいと思います。東京都は、競技別でも男女総合成績で40競技中35競技が入賞を果たしておりまして、そのうち20競技が1位を獲得しております。また、入賞しなかった5競技につきましても、それぞれ得点を獲得しております。なお、女子の総合成績におきましても、23競技が入賞を果たしておりまして、そのうち13競技が1位となっております。

簡単ですが、資料2の説明は以上です。

○秋山本部長 ただいま、昨年の国民体育大会の成績について報告がございました。委員

の皆様から、ご質問、ご意見などをいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、次に参りたいと思います。

3つ目、「これまでの競技力向上の成果と今後の方向性について」です。事務局から、資料の確認、説明をお願いします。

○事務局（松尾） お手元の資料3をご覧ください。「これまでの競技力向上の成果と今後の方向性について」の説明をいたします。

まず、資料の左側が、これまで東京国体での総合優秀に向けて取り組んできた事業の主なものとなります。また、簡単ですが、各事業の成果等も記載させていただきました。

「1 競技力向上事業」に関しては、表をご覧くださいまして、年度ごとに、一番下の欄の競技力向上費を国体の正式競技40団体に配分して、先ほど説明しました国体候補選手強化事業やジュニア特別強化事業などを実施してまいりました。その結果、国体の出場者に占める入賞者の比率は年々向上し、東京国体では第1位を勝ち取ることができました。

次に、「2 医・科学サポート事業」ですが、都内3大学と連携しまして、109名の高校生選手を対象に医・科学的な面からの各種サポートを実施した結果、東京国体に36名の選手が出場を果たしました。さらに、国体だけではなく、そこに記載しておりますように、既に世界大会等に出場を果たし活躍している選手も出てきております。

次に、「3 東京都ジュニアアスリート発掘・育成事業」です。この事業の中からも、東京国体には12名の選手が出場しておりまして、わずか2～3年程度の短い競技経験にもかかわらず、東京国体で優勝者や入賞者を輩出しております。

次に、「4 ジュニア育成地域推進事業」です。都内59地区の体育協会との連携で、スポーツ教室や大会など、表に記載のとおり、全地区あわせて毎年800を超える事業を実施し、7万人規模の参加者数となっております。

このように、これまで東京国体に向けて実施してきました各事業の取組が的確に成果を上げてきております。これらを踏まえまして、今まで培ってきたさまざまな選手強化のノウハウを東京国体終了後も引き続いて生かしていくことはできないかと検討しまして、今後は、中央の図に記載しておりますように、ジュニア層の選手の裾野の拡大から発掘・育成を行い、国体選手強化を図ってきたこれまでの取組を、オリンピック等の日本代表選考会出場選手強化までレベルアップし、より多くの東京育ちのトップアスリートがこのレベルまで達するよう、競技団体等の協力を得て取り組んでまいります。

なお、国は、オリンピック等でのより多くのメダル獲得に向けて取り組んでいただきます。右の「東京オリンピックに向けた事業展開について」ですが、一番下の「4 ジュニア育成地域推進事業」については、これまでと同様に地区の体育協会と連携してスポーツの裾野の拡大やジュニア層の選手の発掘を続けてまいります。その他の事業に関しては、オリンピックや国際大会を目指した選手の発掘・育成強化へとブラッシュアップを図ってまいります。

具体的には、「3 トップアスリート発掘・育成事業」は、事業の目的を、これまでの東京国体からオリンピックやユースオリンピック、世界選手権やジュニア世界選手権などの世界の大舞台で活躍する東京育ちの日本代表選手の発掘・育成へと改めてまいります。

また、「2 テクニカルサポート事業」ですが、これまでの医・科学サポート事業の対象競技の中からオリンピック競技に限定するとともに、対象とする選手もより確実に世界を狙える選手へ絞り込みを行う予定です。

さらに、「1 競技力向上事業」に関しても、引き続き国体候補選手強化事業とジュニア特別強化事業を実施して競技力向上を図っていくとともに、新たに国が行う海外遠征にかかる経費等を支援するなど、こうしたものをメニューとした日本代表選考会出場選手強化事業を創設し、一人でも多くの東京都の選手をオリンピックなどの国際大会での日本代表選手に選ばれるように、競技力の向上を図ってまいります。

平成 26 年度の予算額ですが、いずれの事業も今年度と比較し同額以上となっております。なお、資料 3 について、各部会で出た主な意見等を紹介させていただきます。強化・指導者部会では、2020 年のオリンピックに向けて、オリンピック・パラリンピック準備局と教育庁が今後も連携した取組を望むというご要望がございました。また、医・科学部会では、今後の方向性における東京都と国との役割分担に関するご質問がありましたので、中央の図をもとに先ほどと同趣旨の説明をさせていただきました。

最後になりますが、東京都競技力向上推進本部会議並びに各部会に関しましては、本日までが設置期間となります。委員の皆様におかれましては、これまで東京国体での東京都選手団の総合優勝に向けてさまざまなお助言をいただき、まことにありがとうございました。東京オリンピックなどに向けた今後の競技力向上の方向性につきましては、ただいま説明をさせていただいたとおりですが、具体的な展開やさらなる強化策につきましては、次年度以降、東京都スポーツ振興審議会の場で引き続き検討を進めていく予定です。

簡単ですが、資料3の説明は以上です。

○秋山本部長 どうもありがとうございました。

ただいま、国体に向けた取組の成果の実績の報告とともに、今後の事業の基本的な考え方ということで、東京オリンピック・パラリンピックに向けた事業展開をブラッシュアップしていくという説明がございました。この件につきまして、ご意見等がございましたらご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

○板垣委員 最初に「東京国体に向けた取組の成果について」がありました。資料2にも、点数が3,486点と明示されております。私の記憶では、2年前に、この場所で1回、3,743点という埼玉最高得点を超えるか超えないかという議論がありまして、同率でいくと3,305点だったかと思いますが、そのラインになるけれども、どうかという議論が1回なされました。たしか、上村委員から、目標は下げるべきではないというお話があり、いろいろ議論した上で、目標は目標として維持しながら、最終的な総括でもう一度振り返ってみてはどうかということもあって、たしかそのまま目標を変えずに、高い目標で走ってきたという経緯があったかと思います。その辺が議事録にも、14ページぐらいに載っていますね。今回、同率で下げた場合の点数が3,305点と当時言っていたものは確実に超えていることと、3,743点自体はかなり高い数字でしたので、どうかという議論もありましたが、そのまま掲げながら進めてきた中で今回の総括がどうかということになると、実質的には相当オーバーしてクリアしているという理解でいいのかなと思いました。やはり高い目標に向けて進めてきた成果ではないかと思っております。

その意味で、今後は、2020年に向けたいろいろな目標設定が、今後の新しい審議会の中でも議論されるかと思いますが、その意味で、一応、国体に向けて、この本部会議も5年間議論してきた結果が、最後は本当に大成功ということで終了できて、私としても、本当によかったなど、今、振り返って思っているところです。

これは感想ということで。失礼しました。

○秋山本部長 ありがとうございました。国体での点数計算上の問題ということでしたね。

○板垣委員 そうです。

○秋山本部長 私も板垣委員などからそういう説明を受けまして、国体競技が終了したところで、選手団の前で、換算すると史上最高得点であると明言してしまいましたので。そういう位置づけということで大成功ということだったと思います。

ほかにご意見いかがでしょうか。

○上村委員 国体は本当にいい成績で良かったと思います。私は、目標を下げるべきではないと発言させていただきたかったのは、それはあくまでも、大会直前でしたので、そう言わせていただきました。それをきちんとくんでいただいて、3,400点を超える点数は換算すると過去最高の成績ですので、これを達成していただいたのは本当に立派だと思います。さて、今後、これを2020年のオリンピックにつなげていくわけですが、2020年は、東京国体を目指し、鍛えてきた選手達が主力となる世代です。ですから、ここまで鍛えられて、いろいろなサポートをしてこられたことを継続し、これからきちんと、次につなげていかなければならないと思います。そのためには、引き続ききちんと情報管理をした上で、的確なサポートを行うことが大事だと思います。次の委員の皆さんには、ぜひそれをお願いしたいと思います。やはり東京で開かれる大会、地元の選手たちが活躍することが一番盛り上がりますので、ぜひお願いしたいと思います。

○秋山本部長 大変ありがとうございました。2020年に向けた東京都選手の活躍についての貴重なご意見だったと思います。

ほかにかがでしょうか。

○金子特別委員 今まで皆さんからご意見が出たとおりでありますが、私が今回感心したのは、この会議の中でそういうお話をしたことがあったと思いますけれども、いろいろと準備していることが、果たして本当に現場に真に届いているのか、本当に指導者や選手たちに届くのかということがすごく大事だというお話をしたことがあるような記憶があります。今度の国体で本当に感心したことは、都の皆様たちのお声が現場に大変よく届いていたことです。そして、現場のコーチや責任者、選手に至るまでも、この目標を必ずクリアするように、今日は応援に来て練習を見ていただいているというような声を何回も聞きました。特に、私は採点競技の現場に立っていましたが、もしかすると、大阪府の選手と東京都の選手が争って、最終的には東京都の選手は緊張すると負けるかなと思いましたが、思いもかけず、ぶっちぎりで東京都の選手たちが、思った以上の大変な意気込みで、実力以上の力を発揮して、大変立派に勝つことができました。

私、すごく組織だってみんなが応援してきたことが実ったなと思いますので、どうぞ、この組織のあり方をさらにもっと深められて、東京オリンピックに向けては、地元開催ですから、一人一人の選手たちに声かけ、励まし、東京都の計画などがきちんと伝わる形で進

めれば、さらに成功を深められるかなと思いましたので、お礼を言いたいと思っています。

○秋山本部長 大変ありがとうございました。組織的にきちんとフォローができたのではないかということで、東京都のスポーツ行政に対するお褒めの言葉と理解させていただきまして、厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

ほかにかがでしょうか。

ご意見は以上でよろしゅうございますか。

以上で、事務局が予定した議事については終了しました。皆様から他に何かご意見がございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、特にご意見がないようですので、以上で進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしくどうぞお願いします。

○早崎委員 本日は、お忙しい中、貴重なご意見を賜りまして、本当にありがとうございました。

東京都の競技力向上推進本部会議並びに強化部会、指導者部会、医・科学部会の委員の皆様方におかれましては、その任期につきましては、先ほど課長からお話しさせていただきましたように、本日までとなります。

先ほど、金子特別委員からもお話がございましたように、今回、東京国体で優勝したのは、ここにいらっしゃる委員の皆様方をはじめ、東京都体育協会、各競技団体、スポーツ文化事業団、学校関係も含めての各関係者の応援の賜物であると思っております。

ここにサッカー関係の方がいないので言わせていただきますと、私、味の素スタジアムで少年のサッカーの決勝戦を見に行ったときに、どう考えても、足の速さ、強さを考えると、大阪と東京が戦っていたのですけれども、確実に大阪が勝つと思っていました。ところが、東京が優勝したということで、皆様方の思いが東京の少年の子供たちに伝わったのかと思ひまして、本当にみんなで応援した賜物と思っております。

今後は、東京オリンピックに向けた事業展開ということで、開催都市が東京であること、また、毎年の国体を目指して今後とも強化を図ってまいります。そのため、これからも、委員の皆様におかれましてはさまざまな場面でご助言、ご指導をいただくとお思います。その際には、何とぞよろしくお願いしたいと思います。

これもちまして、第8回東京都競技力向上推進本部会議を終了とさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

午後 3 時 3 6 分閉会